

第3回輪之内町合同家庭教育学級の報告

- 1 演 題 「子どもがやる気になるスポーツへの働きかけ」
- 2 期 日 令和2年12月4日(金)
- 3 時 間 13時30分～15時00分
- 4 場 所 輪之内町図書館 視聴覚室
- 5 講 師 岐阜聖徳学園大学教授 小栗 和雄 先生 (教育学部)
- 6 参加者 大藪小 1名、輪之内中 1名、仁木こども園 1名
福東こども園 3名、その他 2名 合計 8名
(他に、西濃県事務所 酒井先生)

科学的データにもとづく納得できるわかりやすい講話であった。

- ・子どもが運動・スポーツが嫌いになる理由
小学校入学前から体を動かすことが苦手だったから
- ・やる気スイッチをける指導の7箇条
ついつい動き出す楽しい仕掛けをつくる！
多様な運動を経験させる！動きの土台を広げる！
屋外で大人も一緒に動く！まず大人が楽しむ！
家庭で運動やスポーツについて話す・観る！
運動時間を60分以上は確保する！世界共通目標。
Small stepで教える！手塩にかける。
勝負を楽しむ！ Good loser！
- ・運動の上達は「やってみよう！」から始まる！
「やってみよう」段階
「さぐり」段階
「まぐれ」段階
「コツをつかんだ」段階
「自然にできる」段階
- ・子どもの頃に高めたい神経系の運動能力
リズム能力、バランス能力、連結能力、定位能力、識別能力、反応能力
- ・10歳までに神経系の90%が完成する！
- ・家庭、特に父親が運動するほど子どもも動く！

- ・運動やスポーツを観たり、話すだけでも効果あり
- ・たくましが”確かに大事”と照明された！

非認知能力 (①自己肯定感、自尊心②性格、特性③自己管理
④他者とのコミュニケーション

の土台の上に

認知能力 (⑤認知能力<知覚、判断、想像、推論、決定、記憶、言語理解>⑥⑦実力、
人間の幅、学力が高い、教養がある)

がある。非認知能力が大切。

- ・体力の遺伝率 約50～55%
- ・運動は非認知能力を高める。
- ・たくましく生きるために勝負をして非認知能力を高める！

ドッジボールの是非 攻撃的、苦痛、いじめとの批判もある

リスクを避ける工夫して行う。 リスク・負け・悔しさがゼロの人生はない。

